

出雲市中小企業景況調査結果（平田商工会議所管内）

今 期（2011年7－9月）の 概 要

調査期間 平成23年10月3日～10月14日

対象企業 調査対象企業数30社 回答率28社（回答率 93.3%）
内訳：建設業4社、製造業6社、卸売業2社、小売業9社、サービス業7社

概 況

- 全業種の今期業況DIをみると、前期比で $\Delta 19.2$ （前期調査 $\Delta 40.0$ ）、前年同期比でも $\Delta 22.2$ （前期調査 $\Delta 38.5$ ）と、ともに2期連続でマイナス幅が縮小しています。来期業況見通しDIも、今期比で $\Delta 11.5$ （前期調査 $\Delta 38.5$ ）とマイナス幅が縮小しています。
- 全業種の今期売上DIは、前期比で $\Delta 40.7$ （前期調査 $\Delta 34.6$ ）とマイナス幅が微増しています。前年同期比では $\Delta 25.0$ （前期調査 $\Delta 50.0$ ）とマイナス幅が半減しています。来期売上見通しDIは今期比で $\Delta 33.3$ （前期調査 $\Delta 48.1$ ）とマイナス幅が縮小しています。

業種別景況調査の主要DI

1、建設業

- ・今期業況DIが、前期比で0.0（前期調査 $\Delta 50.0$ ）、前年同期比も0.0（前期調査 $\Delta 33.3$ ）と、ともにゼロまで回復しています。また、今期売上DIは前期比で0.0（前期調査 $\Delta 75.0$ ）と大幅に改善、前年同期比も0.0（前期調査 $\Delta 33.3$ ）まで上向きました。
- ・来期業況見通しDIは、今期比で0.0（前期調査 $\Delta 75.0$ ）の見通し、売上見通しDIも $\Delta 25.0$ （前期調査 $\Delta 75.0$ ）とマイナス幅が縮小しており、業況の改善が期待されています。

2、製造業

- ・今期業況 DI が、前期比で△16.7（前期調査△33.3）とマイナス幅が縮小しましたが、前年同期比では0.0（前期調査16.7）まで悪化しました。また、売上 DI で前期比△50.0（前期調査△33.3）、前年同期比でも0.0（前期調査16.7）と、改善が見られた前回調査から一転、下降しています。
- ・来期業況見通し DI は、今期比で△33.3（前期調査△33.3）と同水準で推移しましたが、売上見通し DI は今期比で△50.0（前期調査△66.7）と依然低い水準であり、先行きへの不安が続いています。

3、卸売業

- ・今期業況 DI が、前期比で0.0（前期調査100.0）とプラス幅が減少しましたが、前年同期比では0.0（前期調査△100.0）と大きく回復しました。売上 DI では、前期比で0.0（前回調査100.0）と一転して減少しましたが、前年同期比では0.0（前期調査△100.0）に回復し、反比例する結果となりました。
- ・来期業況見通し DI は、今期比では50.0（前期調査100.0）、売上見通し DI でも今期比で50.0（前期調査100.0）と、ともに半減しました。需要の停滞や受注の減少による業況の悪化が懸念されています。

4、小売業

- ・今期業況 DI が、前期比で△37.5（前期調査△62.5）とマイナス幅が2期連続で縮小しました。前年同期比でも△55.6（前期調査△88.9）とマイナス幅が縮小しています。売上 DI は、前期比で△75.0（前期調査△37.5）とマイナス幅が倍増しましたが、前年同期比では△66.7（前期調査△88.9）とマイナス幅が縮小しました。長引くデフレにより消費マインドも低下しており、上向かなくなるのではと不安視されています。
- ・来期業況見通し DI は、今期比で△37.5（前期調査△44.4）とわずかながらマイナス幅が縮小しましたが、売上見通し DI は△37.5（前期調査△33.3）とマイナス幅がやや拡大しています。

5、サービス業

- ・今期業況 DI が、前期比で△16.7（前期調査△33.3）、前年同期比でも△16.7（前期調査△14.3）と、どちらも減少しました。売上 DI は前期比で△28.6（前期調査△28.6）と同水準で推移、前年同期比は△14.3（前期調査△57.1）とマイナス幅が大きく縮小しています。「夏休みが盆に集中せず、週末利用で遠出されるパターンが多くトータルのそれが稼働状況につながったのではないかと分析している企業もありまし

た。

- ・ 来期業況見通し DI は、今期比で 16.7（前期調査△33.3）とマイナスからプラスへ回復しました。売上見通し DI でも今期比で△42.9（前期調査△57.1）と僅かながらマイナス幅を縮小しています。今後売上は依然として低い水準で推移するものの、業況は回復に向かうことが期待されています。

設備投資動向

1、今期設備投資

全業種 設備投資を実施した事業所の割合は 38.2%（前期調査 25.0%）で、「車両運搬具」「OA機器」への投資が同率で並んでいます。

建設業 実施割合が 66.7%で、「車両運搬具」の割合が最も高くなっています。

製造業 実施割合が 60.0%で、「機械・備品」の割合が最も高くなっています。

卸売業 実施割合が 0.0%で、投資なしとなっています。

小売業 実施割合が 22.2%で、すべて「OA機器」となっています。

サービス業 実施割合が 14.3%で、すべて「車両運搬具」となっています。

2、来期設備投資

全業種 設備投資を計画している事業所の割合は 7.4%（前期調査 15.4%）で、「機械・備品」「付帯施設」への投資が同率で並んでいます。

建設業 設備投資を計画している割合が0.0%で、投資なしとしています。

製造業 設備投資を計画している割合が33.3%で、「機械・備品」「付帯施設」が同率で並んでいます。

卸売業 設備投資を計画している割合が0.0%で、投資なしとしています。

小売業 設備投資を計画している割合が0.0%で、投資なしとしています。

サービス業 設備投資を計画している割合が0.0%で、投資なしとしています。

経営上の問題点

全業種 第1位は「需要の停滞、受注減少」が61.5%と、6割を超えています。第2位は「単価の低下・上昇難」となっています。

建設業 第1位が「需要の停滞、受注減少」で、50.0%となっています。第2位は「新規参入業者の増加」「材料等（原材料）仕入れ価格の上昇」となっています。

製造業 第1位が「需要の停滞、受注減少」で、33.3%となっています。第2位は「人件費の増加」となっています。

卸売業 第1位が「需要の停滞、受注減少」で、100.0%となっています。

小売業 第1位が「需要の停滞、受注減少」で、66.7%と7割近くを占めています。第2位は「店舗・機械・備品等設備の老朽化」となっています。

サービス業 第1位が「需要の停滞、受注減少」で、80.0%と大多数を占めています。第2位は「従業員の確保難」となっています。

注：DI（業況判断指数）とは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から、「減少」・「悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

詳細は業種別景況を参照してください。